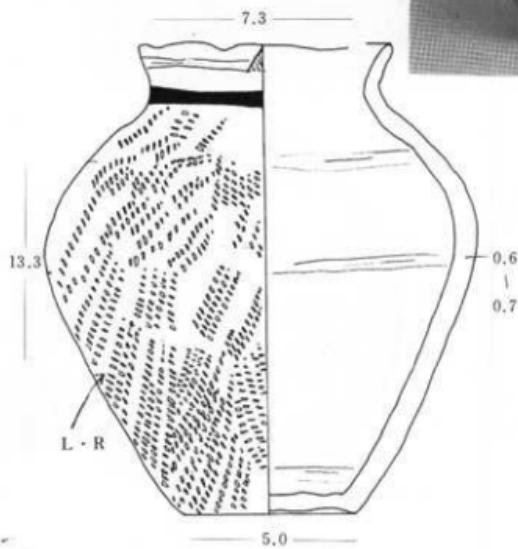


〔壺形土器〕-58 (精製)

☆ (58) は、A N 2 地区 L 6 区 III 層出土の第 8 群土器 (大洞 C 2 式) である。

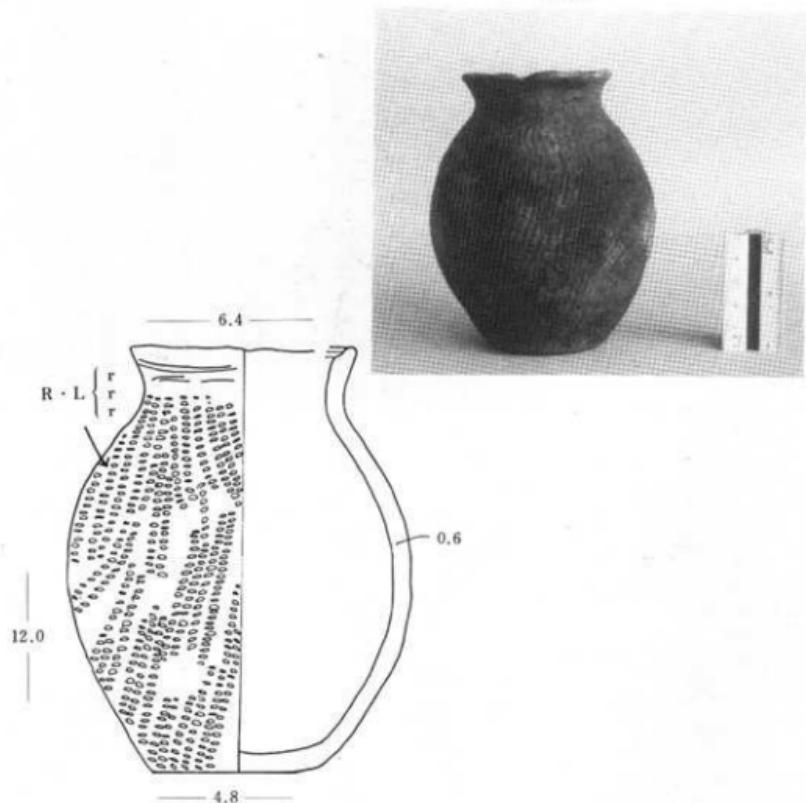
- (58) の器形は、口縁部は、平縁であるが、「山型突起」と、その両側に「二叉山型突起」を配置するもので、頸部は、ほぼ直立する。肩部は張らず胴部はふくらみをもつ器形で底部は「平底」を呈するものである。
- 施文は、肩部に 2 条、胴部の最大幅部に 2 条の平行沈線文がめぐり、施文帯を区画している。この施文帯には、「大洞 C 2 式」の雲形文が施文されるものである。また底面にも 1 条の沈線文が施文される。
- 色調は、朱ぬり土器であるため、外面は、灰赤色を呈し、胎土・焼成は良いが軟質である。



〔壺形土器〕—59 (粗製)

☆ (59) は、AH2 III出土の第8群土器(大洞C2式)である。

- この土器の器形は、口頸部が「くの字」状に外反し、肩部がわずかに張るもので、最大幅部は、中央上にあって底部に向ってしまう器形である。底面は、やや「上げ底」ぎみである。
- 施文は、肩部下より底部まで、二段単節縄文L·Rが密に、しかも不整に施文されるものである。
- 色調は、外面黄褐色、内面灰黄褐色を呈する。胎土・焼成とも良好、堅緻である。

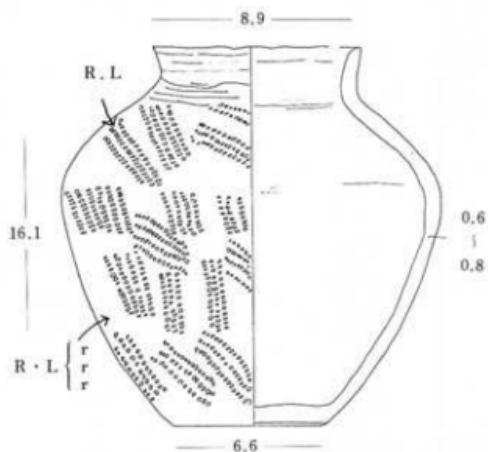


〔壺形土器〕-60 (粗製)

☆ (60) は、AH1IV出土の第10群土器（大洞A式）である。

- この壺形土器の器形は、口縁は平縁で、口頸部は弧状に外反し、肩部が脛らず、最大幅部は、胴下部にある器形で、底面は「平底」である。
- 施文は、口縁内側に沈線文が1条めぐり、肩部下に0段多条のR·L繩文が施文されるものである。
- 色調は、外面赤褐色、内面灰黄褐色、胎土・焼成とも良く堅緻である。

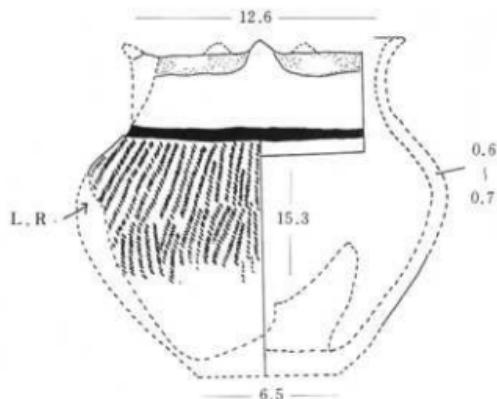
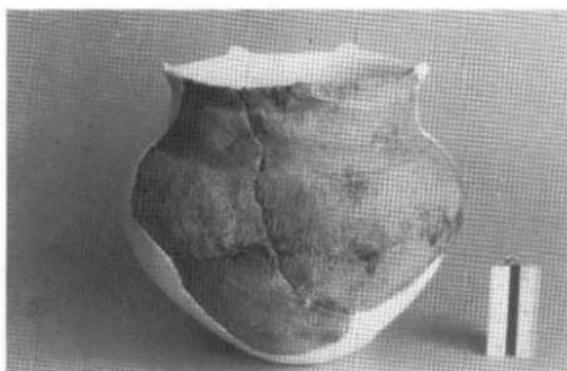
※ なお、縄文時代晩期で二段単節繩文（R·L）が施文されるものは少なく、壺形土器に施文されたものは、若干出土するようである。(但し、当地区をフィールドとする場合)



〔壺形土器〕-58 (粗製)

☆ (61) は、A H 2 III出土の第8群土器(大洞C 2式)である。

- このものの器形は、口縁は平線で、口頸部は外反するが外反のしかたが弱く、最大幅部は、器高の上部にある器形で、底面は「上げ底」を呈する。
- 施文は、口頸部は無文で、肩部下には、R·L 繩文が施文される。
- 色調は、外面赤褐色、一部暗褐色、内面灰褐色を呈する。胎土・焼成ともやや悪く、ザラザラしている。

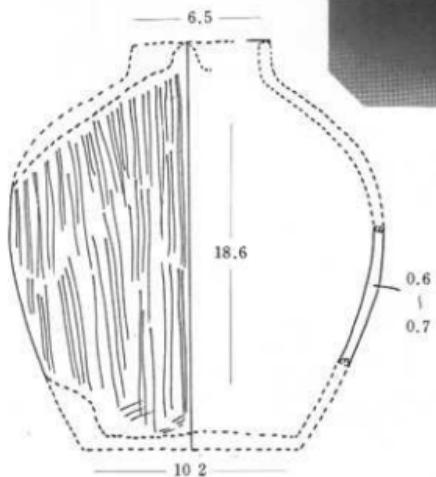


〔壺形土器〕-62 (粗製)

☆ (62) とした壺形土器は、A H 3 III出土の第8群土器（大洞C 2式）である。

- この土器は、平縁に外側へやや突出する「突起」を5~6こ付すもので、口頸部は広く、広口壺と言っても過言ではない。肩部がふくらみをもって張る器形で、底面は、欠失したものである。
- 施文は、口頸部は無文で肩部下に、0段多条のL·R縄文が左下りに施文されるものである。
- 色調は、外面灰褐色、一部黒色、内面灰黄褐色を呈する。胎土は良いが焼成がやや不良である。

※ なお、このものは、大洞C 2式の後半に出現するようである。



[壺形土器] -63 (粗製)

☆ (63) は、A地区H 2 グリットⅢ層より出土した第10群土器（大洞A式）である。

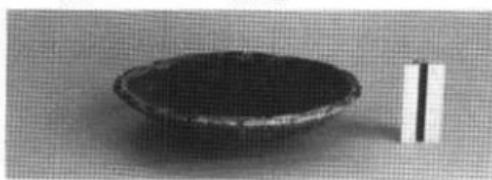
- この土器の器形は、器高に比して口頸部が短いもので、口縁部がわずかに残るが、多分平縁のものらしい。肩部～胴部はふくらみをもつ器形で、「短頸壺」と言っても良い器形である。
- 施文は、口頸部が無文で肩部より「条痕文」が施文されている。底面は、欠失して不明である。
- 色調は、灰黄褐色（内外とも）を呈し、胎土には、微粒砂を含むが焼成も良く堅緻である。

〔皿形土器〕

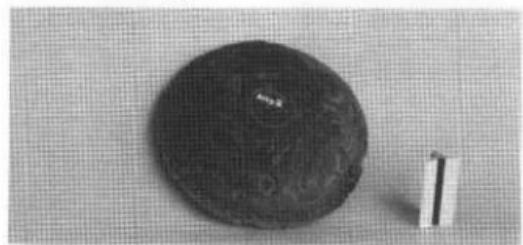
64 a

A H 3 II

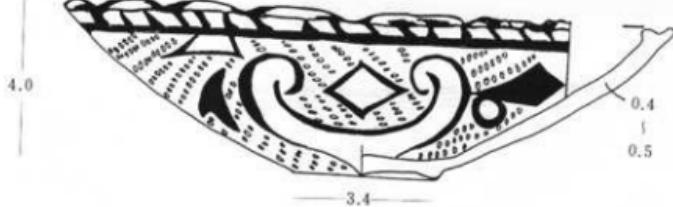
A . P . L 52



64 b



— 15 —



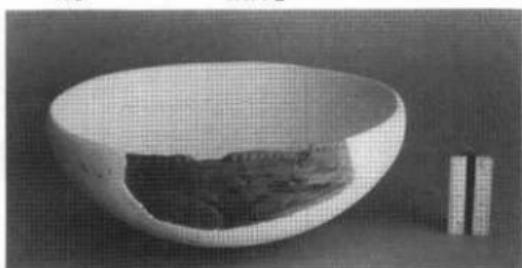
〔皿形土器〕—64 (精製)

☆ (64) としたものは、A H 3 II出土の第7群土器(大洞C1式)である。

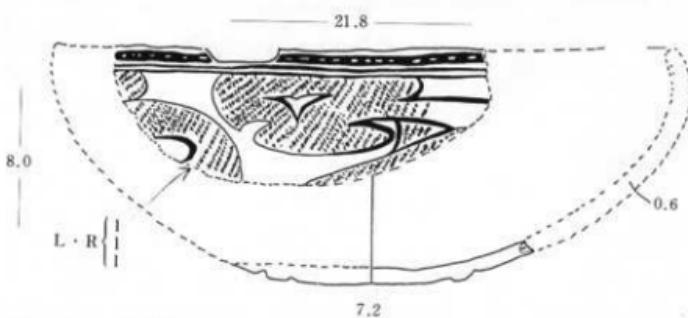
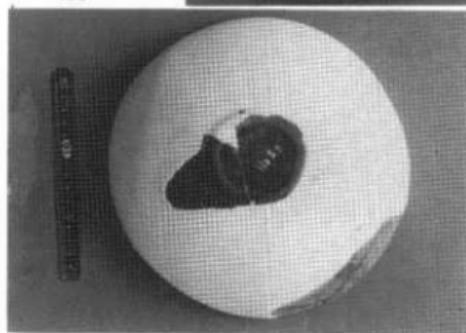
- この(64)の器形は、きわめて浅いもので、口縁は平縁であるが、口唇部に「刻目文」があるため、小波状を呈する。口頸部は、ほんのわずかに外反するが、胴部も、わずかにふくらみ底部に至る器形である。
- 施文は、口唇部に「刻目文」口縁直下には2条の沈線によって、第1施文帯を区画し、そこには、右下りの「刻目文」が施文されている。肩部下に沈線文1条、底部直上に沈線文が1条めぐり、第2施文帯を区画する。この第2施文帯には、磨消手法による雲形文(菱形文・C字文)が浮きぼりにされている。
- 色調は、内外面とも暗黒色、胎土はやや悪いが焼成は良く堅緻である。

65 a

AH 3 II



65 b



〔皿形土器〕—65 (精製)

☆ (65) は、AH 3 II 出土の第 7 群土器(大洞 C 1 式)である。(現存約 $\frac{1}{2}$)

- この皿形土器は、口縁が平縁で、口頸部が強く内傾する器形で、底面は、やや中高のものである。
- 施文は、口縁直下に「刻目文」その下に(肩部) 2 条の細い沈線文と、底部直上にも 2 条の沈線文があり、第 2 文様帶を区画している。この文様帶には、「X字文～K字文」が施文されているものらしい。
- 色調は、内外とも灰黒色、胎土・焼成は良い。

[皿形土器]

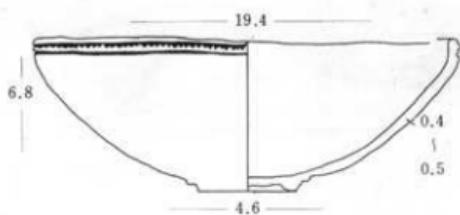
A.P.L54

66 a

A H 2 II



66 b



[皿形土器] - 66 (精製)

☆ (66) は、A H 2 II 出土の第 7 群土器 (大洞 C 1 式) である。

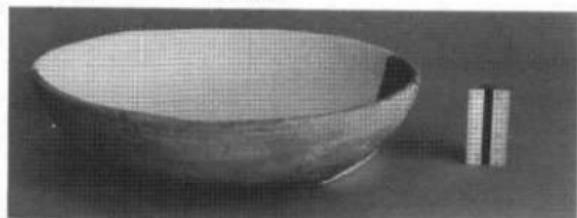
- この皿形土器の器形は、平縁で口頸部は内傾し、肩部以下は、ゆるくふくらむ器形で、底面は、「上げ底」で、しかも中高のものである。
- 施文は、口縁直下には、左下りの「刻目文」がめぐり、肩部には 2 条の沈線文が施文され、底部直上にも 2 条の沈線文が施文され、この両者の間に施文帶を構成している。施文帶には、「X字状文」が磨消手法によって浮文が施文されている。
- 色調は、内外面とも暗黒色を呈し、胎土・焼成とも最良である。

〔皿形土器〕

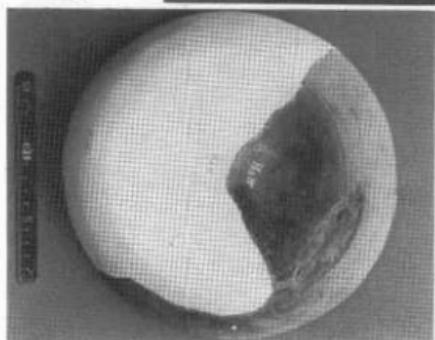
A.P.L55

67 a

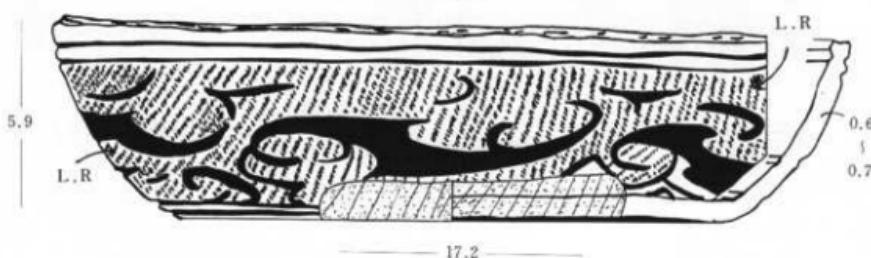
AH2N



67 b



25.2



17.2

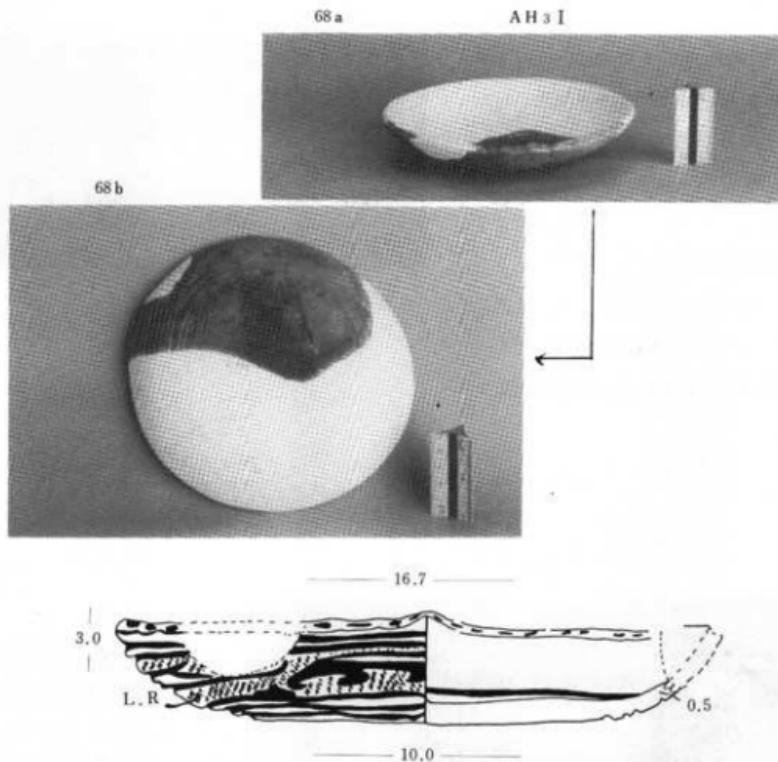
〔皿形土器〕-67 (精製)

☆ (67) は、AH2N出土の第8群土器である。

- この(67)は、大皿で、しかも口径と底径の差が小さく、且つ器高が底いものである。口縁は平縁であるが、やや口頸部が内傾し、胴部は、ややふくらむ器形である。
- 施文は、口唇部に短沈線があり、口縁下に2条、底部上に3条の平行沈線がめぐるもので、これによって区画される文様帶には、やや細い沈線によって「曲線文」があり、縄文(L・R)が充慎される。また、磨消手法による無文帶も認められるものである。

なお、内面の胴部下位には、2条の沈線文が見られるが、このような施文は珍らしい。

- 色調は、内外面とも白灰褐色を呈し、胎土・焼成とも最良である。



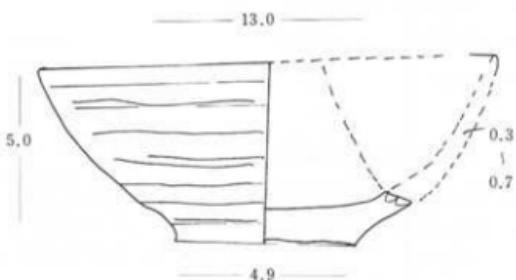
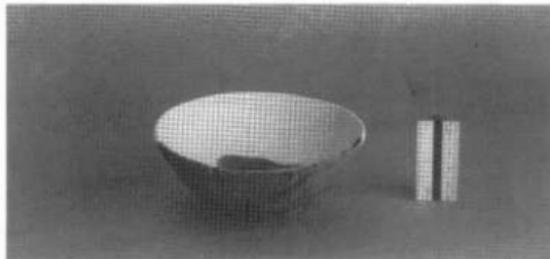
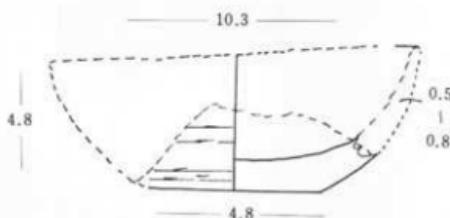
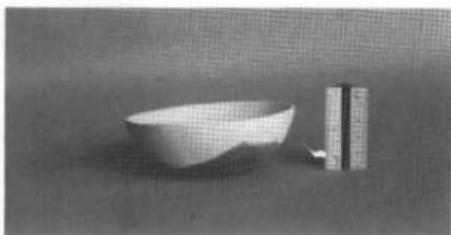
〔皿形土器〕—68（精製）

☆ (68) は、AH 3 I 出土の第8群土器（大洞C2式）である。

- この(68)の器形は、口縁は平縁であるが、口唇部に短沈線があるため、わずかに小波状を呈する。また、口縁から胴部へかけて、わずかにふくらむもので、器高は小さく浅いものである。
- 施文は、口唇部に短沈線があり、口縁直下に2条、底部上に3条の沈線文があって文様帶を区画している。この文様帶には、「曲線文」が施文されている。但し、この曲線文は、平行沈線文が主体をなし、部分的に曲線化する。沈線文の空間には繩文が充填され(L・R)、無文の磨消帶も配置されるものらしい。また、内面に沈線文が1条、底部と胴部の境に施文されている。
- 色調は、外面灰褐色、内面灰黒色を呈し、胎土・焼成は良く堅緻である。

☆ (69) としたものは、AN 4 地区の L・M 6 グリット出土の坏形土師器である。

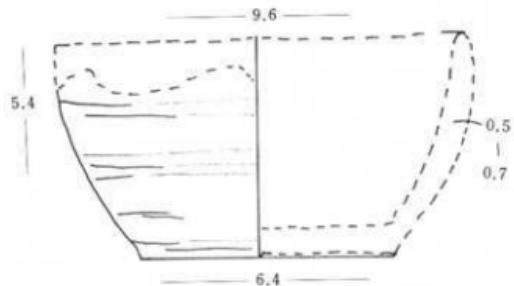
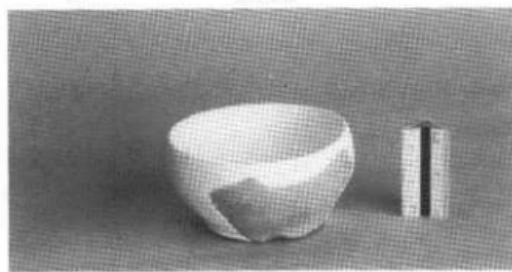
- 現存約半弱で、多少無理して復原したもので、多分実測図のような器形と思われる。
- 色調は、明燈色を呈し、底面は「へら切りと観察される。胎土・焼成とも良く、多少軟質である。



〔土師器一坏〕

☆ (70) は、AC～F区⑥グリットII層出土の土師器(坏形)である。

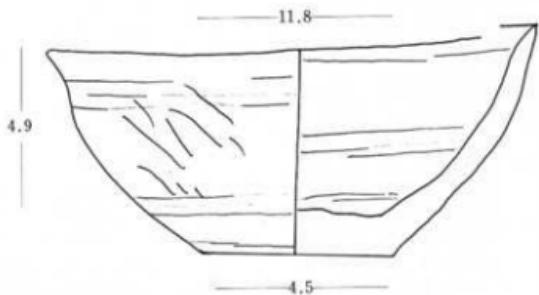
- このものの器形は、碗形をなし、底面には、「糸切り痕」もなく、やや「上げ底」を呈する。
- 器内・外側とも磨耗が烈しく、水引き痕は認められるが「ナデ」の有無、その方向は不明である。
- 色調は、明燈色を呈し、胎土は精選されているが焼成は、やや軟質である。



〔土師器一环〕 -71

☆ (71) は、AH2II出土の第11群土器である。

- ・ この环形土师器は、口颈部、その他は欠失しているが、図上で復原を試みたものである。(現存 $\frac{1}{2}$) 器形は、やや小形で胎土が厚いもので、口颈部が内湾するものようである。成形はロクロの回転によるものらしく、「水引き痕」が胴部に認められる。また、底面には、回転ロクロによる「糸切り」痕が認められる。
- ・ 色調は、暗褐色を呈し、胎土・焼成も良く持ち重りのするもので堅緻である。



〔土師器一坏〕 -72

☆ (72) は、AC～F区の2号住居址内(床面上)より出土したものである。

・ この(72)の器形は、口縁部が外反し、肩部がふくらみ、胴部もゆるく、ふくらむ器形で、底面は、「へら」切り痕を認めるものである。

・ 色調は、明赤褐色を呈し、(内外とも)器内、外面ともよく整形されたもので、「ナデ」方向は左上より右下方向である。胎土・焼成とも極めて良く堅緻である。

※ なお、この坏形土师器は、内外面とも平滑面をなしており、器形にも特色があり、あるいは、移入されたものではないかと考えている。類例を持って、さらに検討したいと思う。

[後期・晩期の土器]

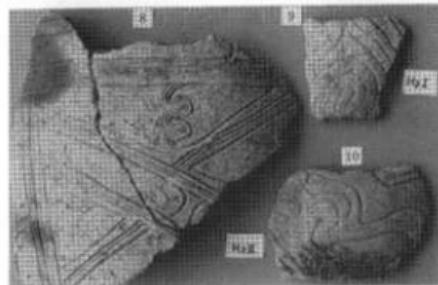
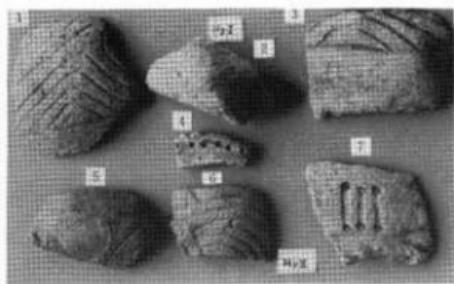
B.P.L.i

(H3 I ~ H3 II 出土)

☆ (1・3) → 第4群土器

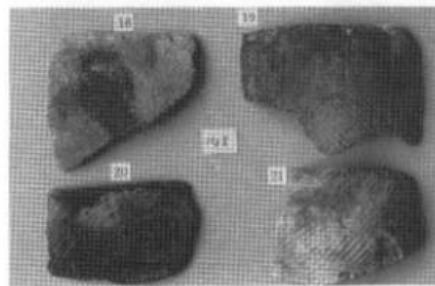
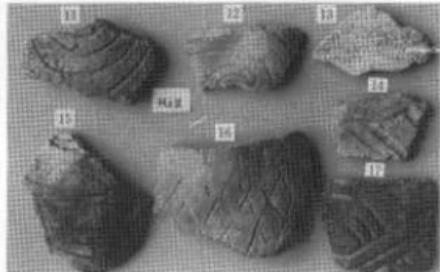
☆ (4) → 第5群土器

(注) 第4群土器は、十腰内I・II式の中間型式。以下も同様。



☆ (9) → 第4群?

[注記のないもの] → { 第3群土器
十腰内I式 }



☆ (18~21) → { 晩期の土器
大洞C2式 }

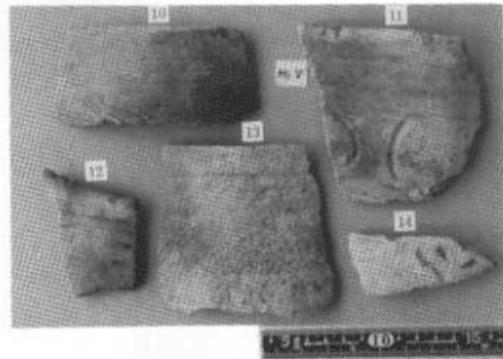
(注)

H1~3 = グリット名
H3 ① = 出土層

16 17 18 19 20 21

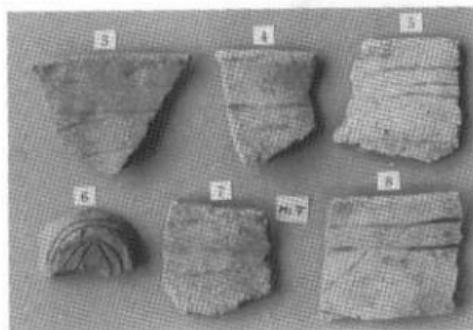
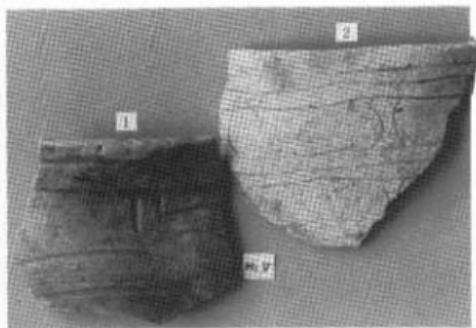
(H1 V出土)

☆ (1~14) → { 第3群土器 }
十種内 I式

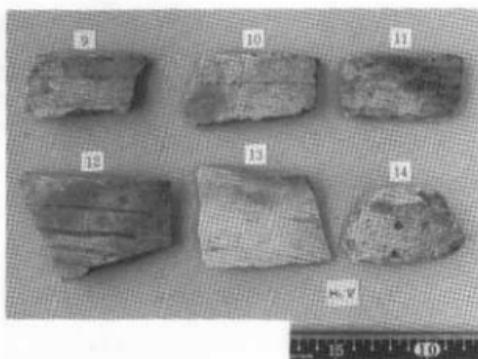


(H1 V出土)

☆ (1~13) → { 第3群土器
十腰内I式 }



☆ (14) → { 第5群土器
十腰内II式 }

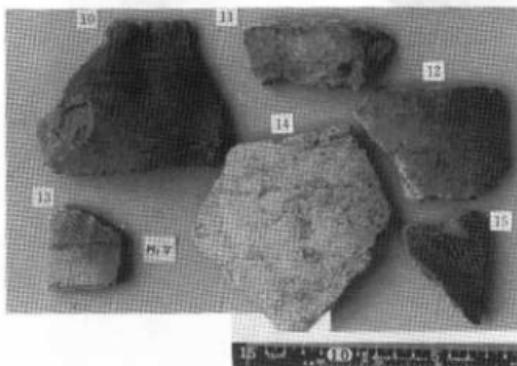
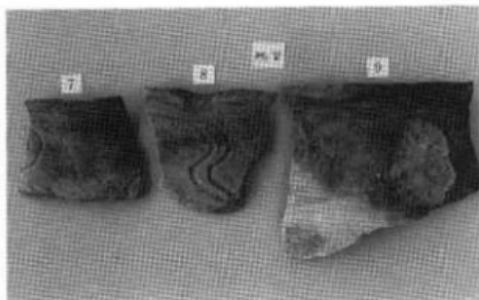
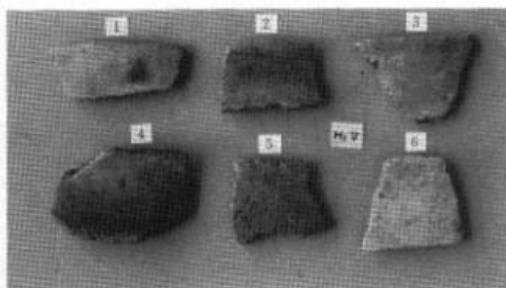


(H1 V出土)

☆ (1~30) → { 第3群土器
十種内 I式 }

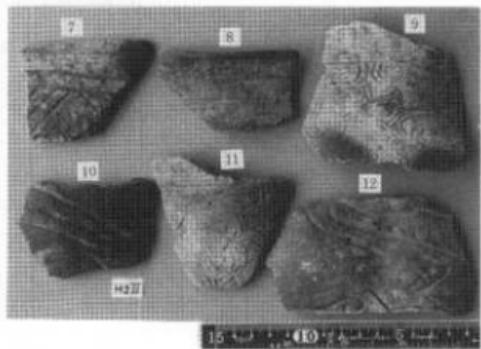
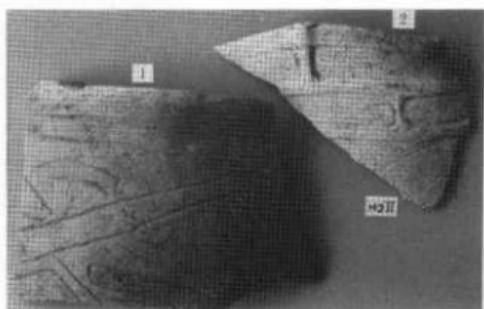
(H1 V出土)

★ (1~15) → $\left\{ \begin{array}{l} \text{第4群土器} \\ \text{十種内 I・II式} \\ \text{の中間型式} \end{array} \right\}$



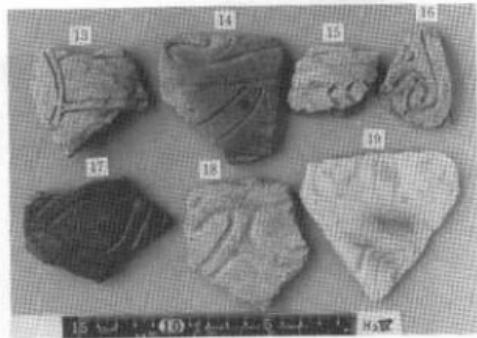
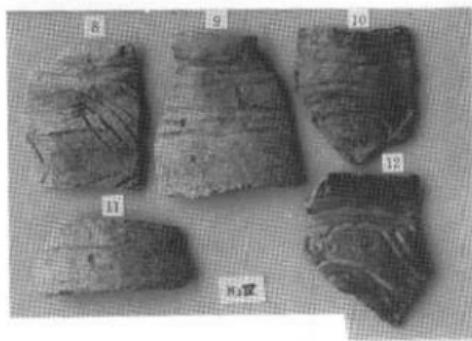
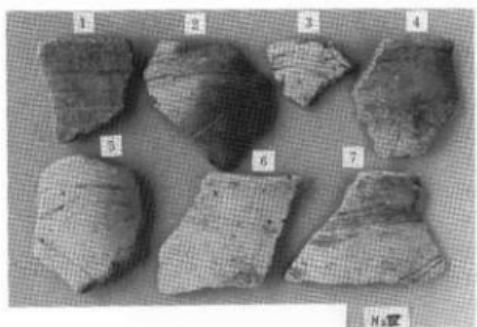
(H2 II 出土)

☆ (1~12) → { 第3群土器
十腰内 I式 }

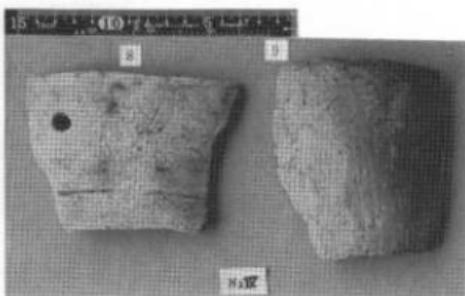


(H2 IV出土)

☆ (1~19) → { 第3群土器
十腰内I式 }



(H2 IV出土)



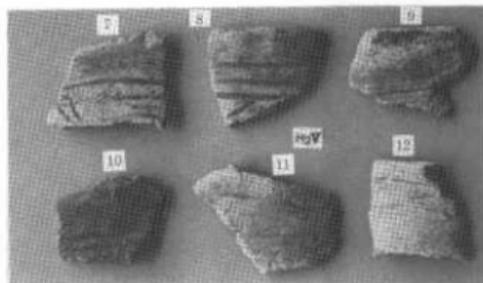
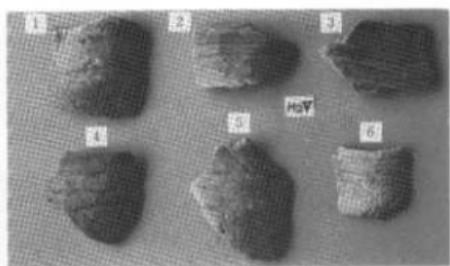
☆ (1~7・9) → 第3群土器
十腰内I式

☆ (8) → 第4群土器
十腰内I・II式
の中間型式

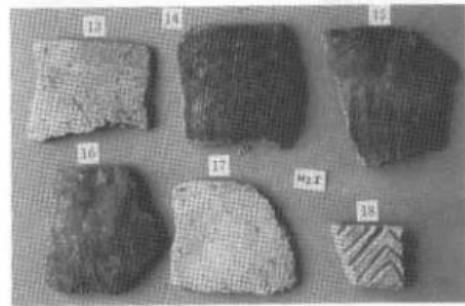
(H₂I ~ H₂II出土)
H₂V出土

☆ (1~12, 19) → { 第3群土器
十様内I式 }

☆ (18~20) → { 第4群土器
十様内I・II式
の中間型式 }



☆ (13~17) → { 晩期の土器
大洞C2式 }

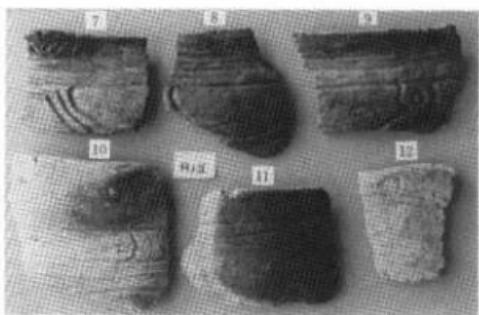
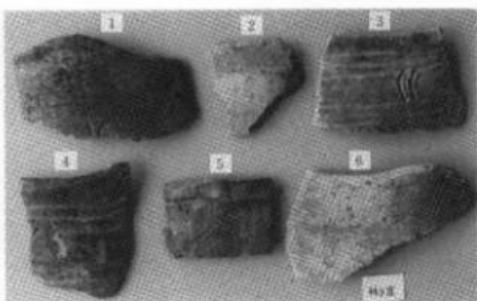


[後期の土器]

B.P.L10

(H3 II出土)

☆ (1~16) → { 第3群土器 }
十腰内 I式

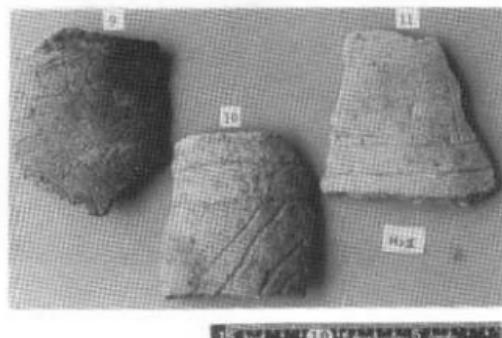


(H2 II 出土)

★ (1 ~ 11) → { 第3群土器
十腰内 I式 }

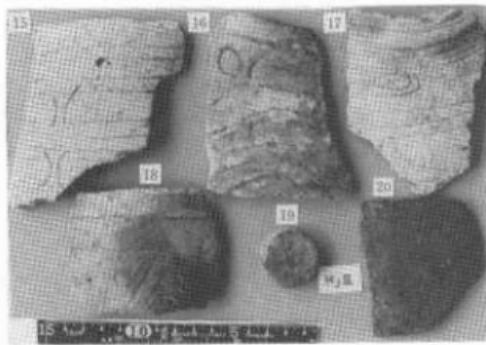


(註) { H3 = グリット名
H3 II = 出土層
(以下も同様)



(H3Ⅲ出土)

☆ (1~20) → { 第3群土器 }
十種内 I式

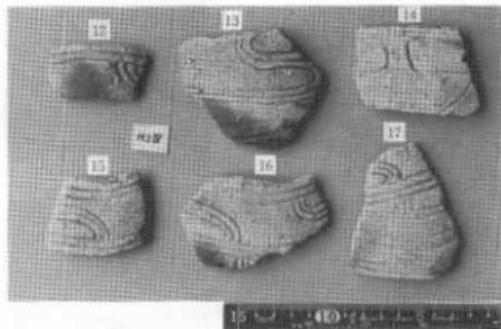
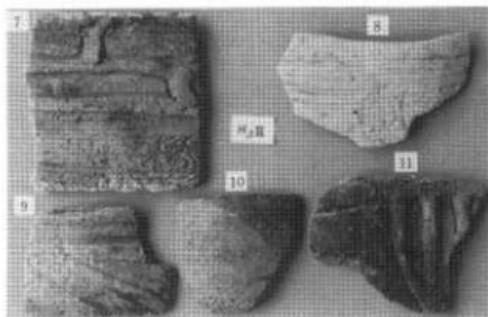
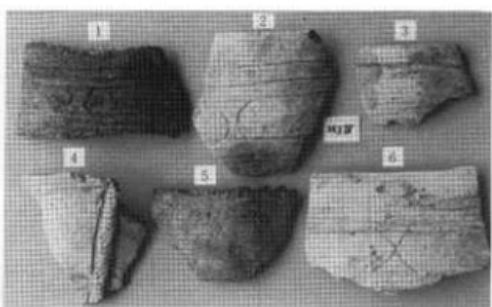


[後期の土器]

B.P.L13

(H3 III~H3 IV出土)

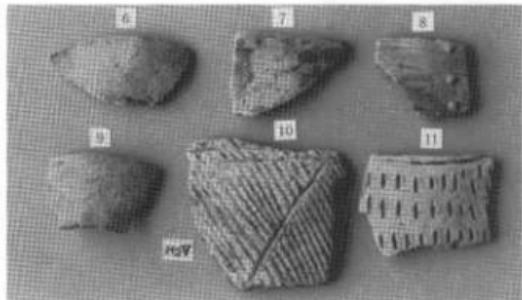
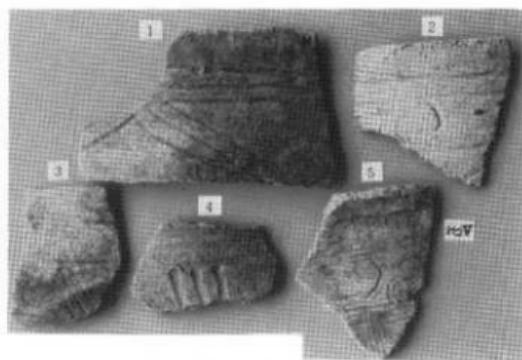
☆ (1~17) → { 第3群土器
十腰内I式 }



(H2V出土)

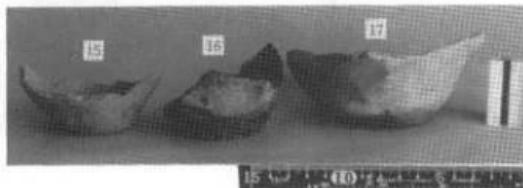
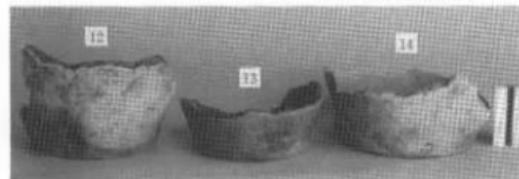
☆ (1~5) → 第3群土器
十腰内I式

☆ (6·7·9~14) → 第4群土器
十腰内I·II式
の中間型式



☆ (8) → 十腰内V式?
(8)は、わずか2片の出土である。群別せず。

☆ (12~14) は底部

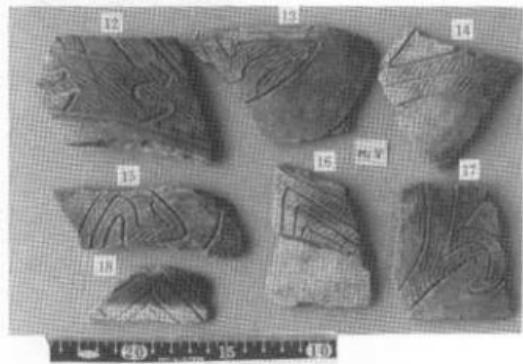
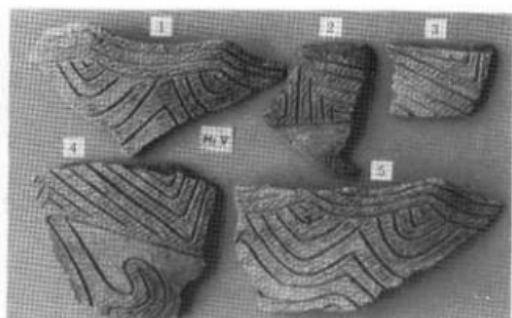


☆ (15) → 晩期

☆ (16·17) → 後期

(H1 V出土)

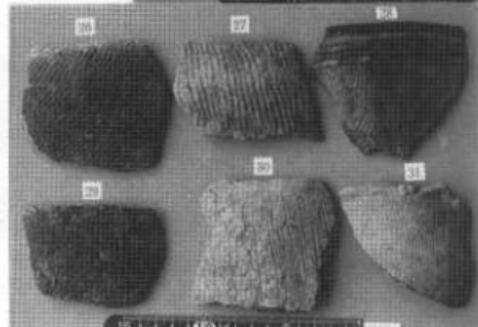
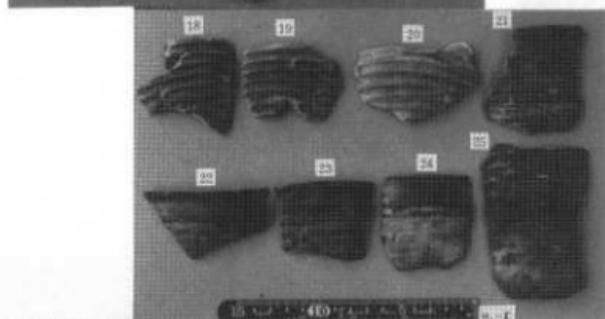
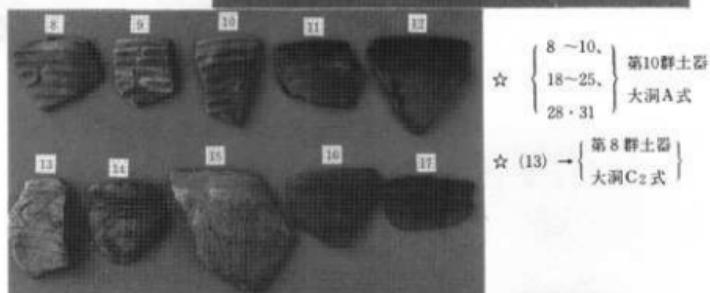
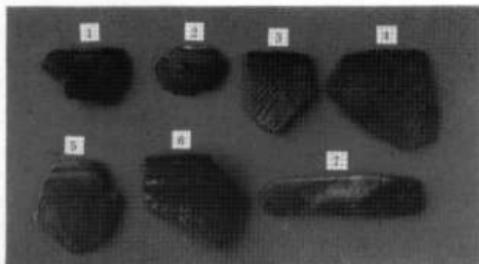
☆ (1~18) → { 第4群土器
十様内 I・II式
の中間型式 }



(H1 I 出土)

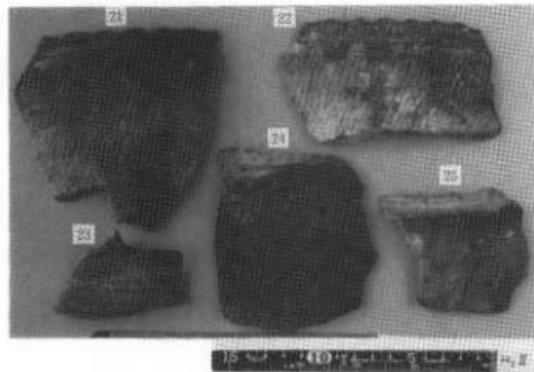
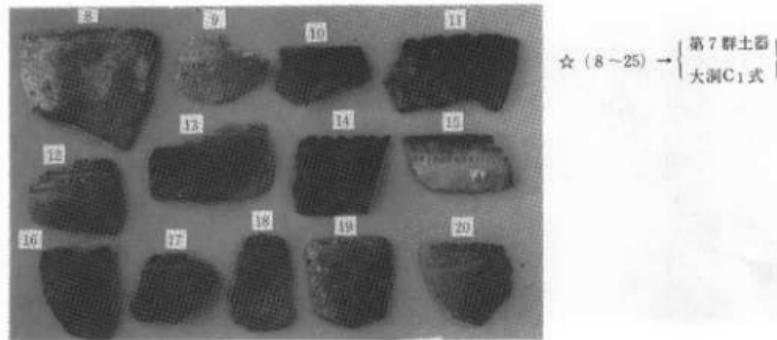
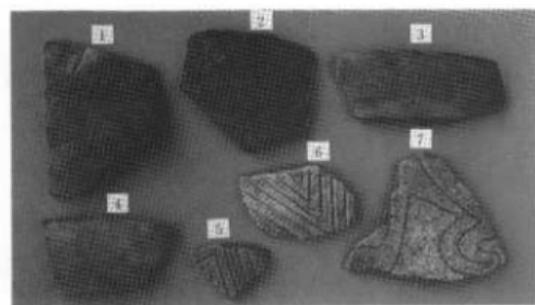
☆ (1~4) → 第7群土器
大洞C₁式

☆ { 5~7、14、15、
11~12、16~17、 } → 第8群土器
26~27、29~30 大洞C₂式



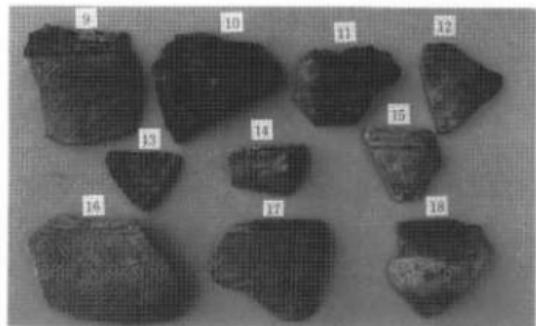
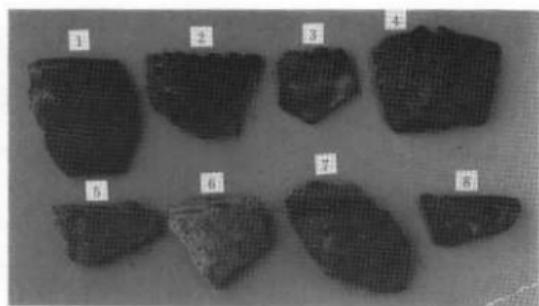
(H1 II出土)

★ (1・2) → { 第3群土器
十腰内I式 }
第4群土器
★ (3~7) → { 第4群土器
十腰内I・II式 }
の中間型式

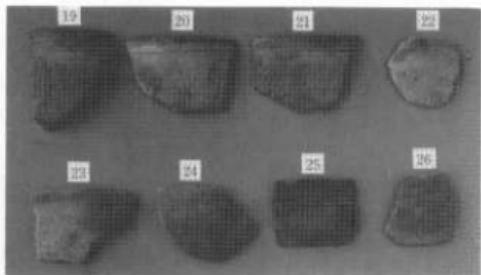


(H1 II出土)

☆ (1~18) → { 第7群土器
大洞C1式 }



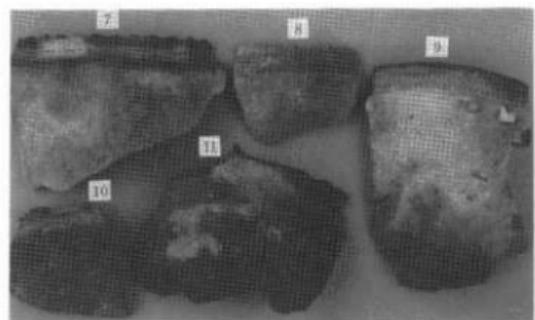
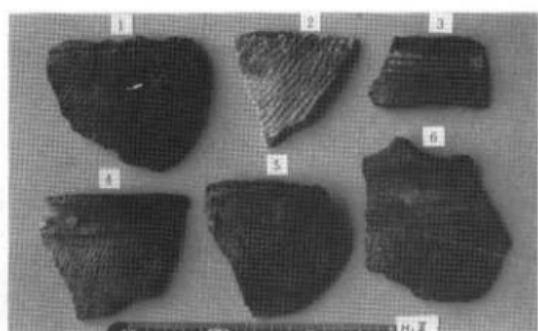
☆ (19~26) → { 第8群土器
大洞C2式 }



(H1 II出土)

☆ (1・5) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

☆ (2・3・4・6) → { 第8群土器
大洞C₂式 }



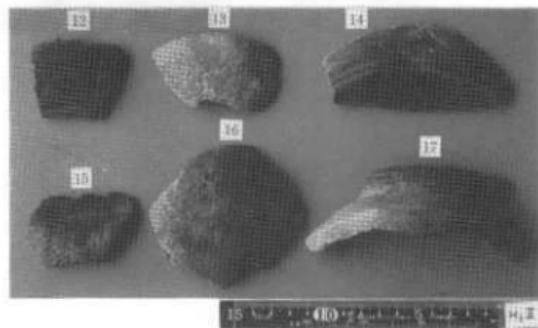
☆ (7~10) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

☆ (11) → { 第8群土器
大洞C₂式 }

☆ (12・15) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

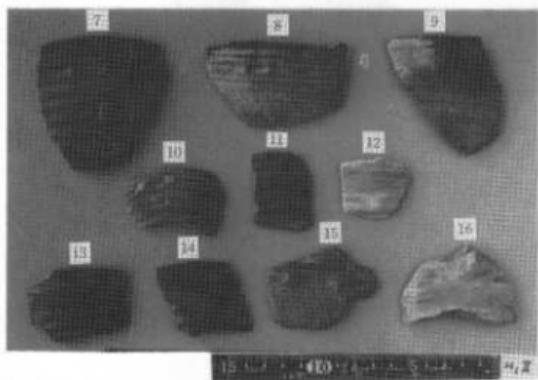
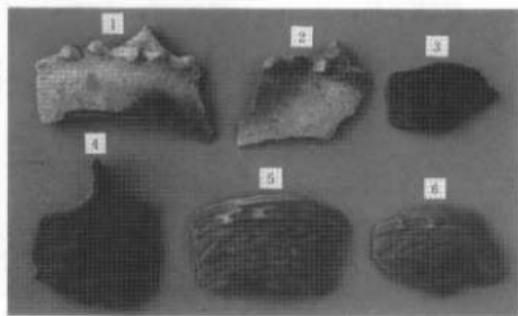
☆ (13・14・16・17)

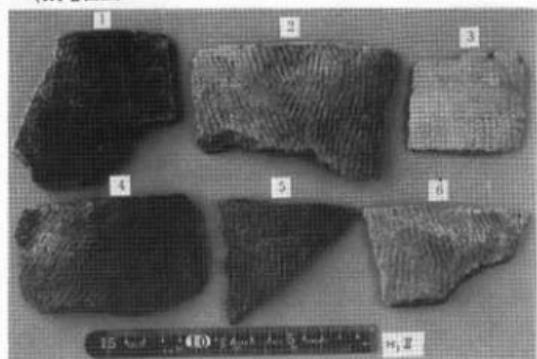
→ { 第8群土器
大洞C₂式 }



(H1 II出土)

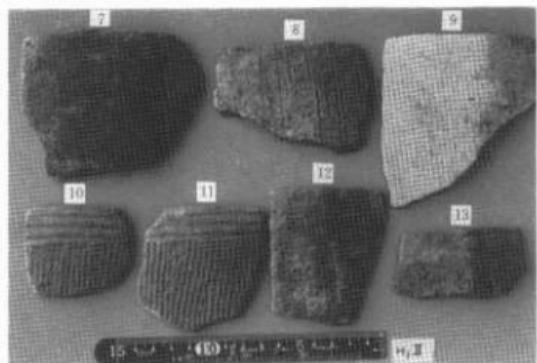
☆ (1~16) → { 第10群土器
大洞A式 }



(H₁ II出土)

☆ (1~6) → 第8群土器
大洞C₂式

☆口縁直下より縦文の施文されるもの。

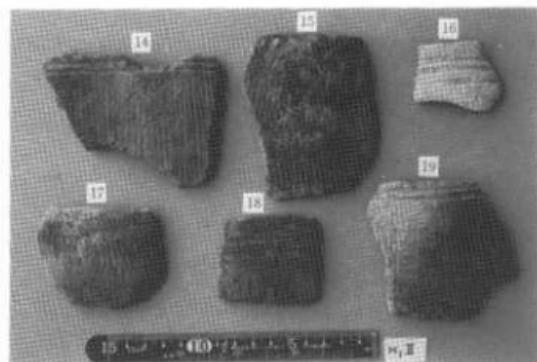


☆ (7~13) → 第8群土器
大洞C₂式

☆ (7~9・12・13) → 條痕文の施文されるもの。

☆ (10・11) → 平行沈線文と單軸撫糸文の施文されるもの。

☆ (14~19) → 第8群土器
大洞C₂式



☆ (14~18・19) → 平行沈線文と、條痕文のあるもの。

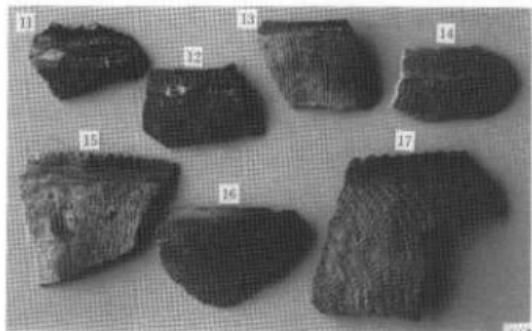
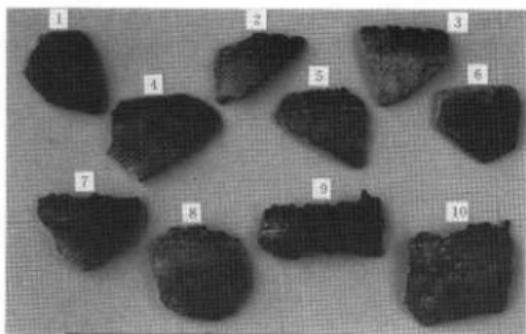
☆ (15・17) → 口縁直下より縦文の施文されるもの。

☆ (16) → 口頭部に平行沈線文の施文されるもの。

[晩期の土器]

B.P.L₂₂

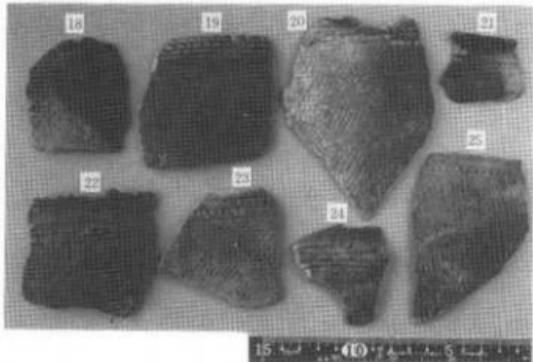
(H1Ⅲ出土)



☆ (1~25) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

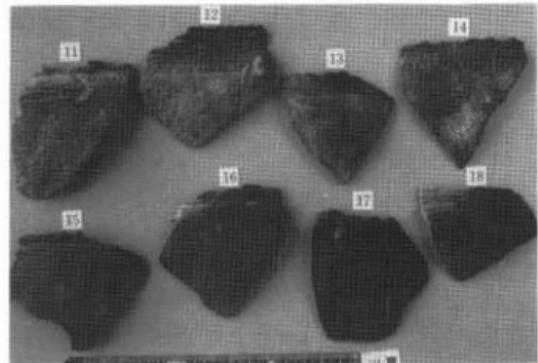
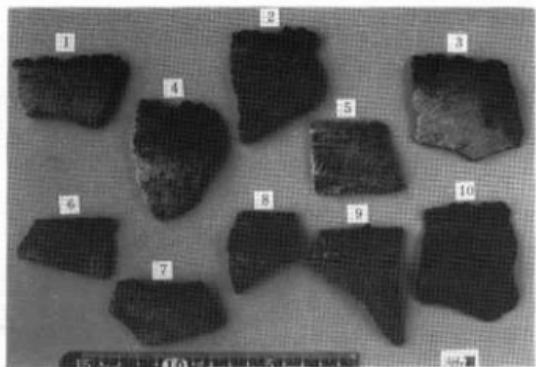
☆口頸部に刺突文が施文されるもの。

☆(胴部に斜行縦文、羽状縦文、早軸
撚糸文)が施文されるもの。



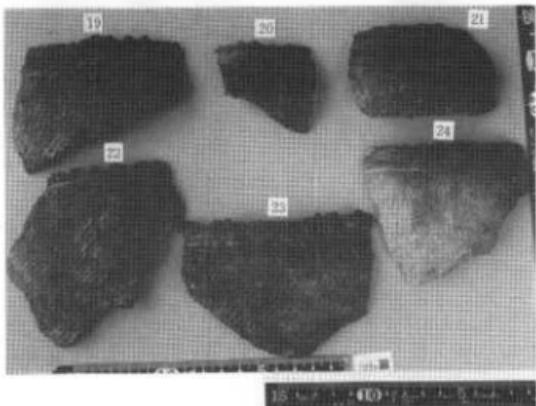
(H1Ⅲ出土)

☆ (1~24) → { 第7群土器 }
大洞C1式



☆口縁が小波状を呈し、頸部には刺突文をもつもの。

☆胴部には斜行繩文が施文されるもの。

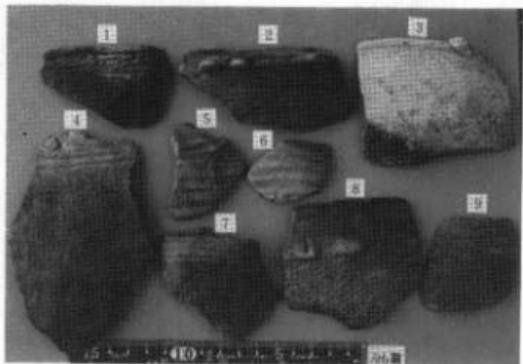


[晩期の土器]

(H1 III出土)

B.P.L24

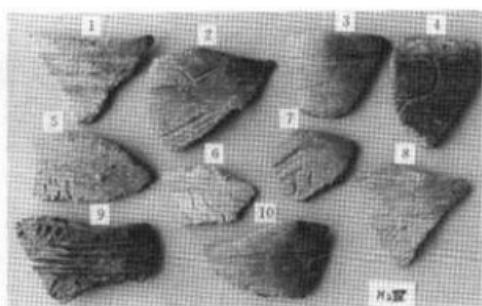
- ☆ (1) → { 第6群土器
大洞B・C式 }
- ☆ (2) → { 第7群土器
大洞C₁式 ? }
- ☆ (3・4・7~9) → { 第8群土器
大洞C₂式 }
- ☆ (8) は大洞A式の疑いもある。また、(1)の大洞B・C式の出土は、数片のみである。



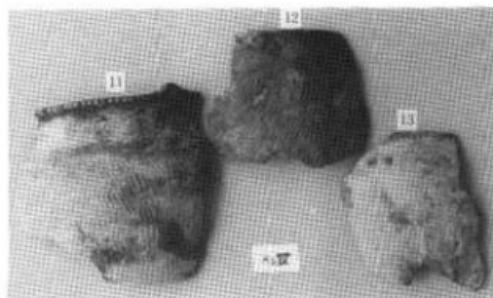
- ☆ (5・6) → { 第10群土器
大洞A式 }
- ☆ (10~15) → { 第8群土器
大洞C₂式 }
- ☆ (10) → 口縁が小波状を呈し、条痕文の施文されるもの。
- ☆ (12) → 頭部に平行沈線文が施文され、單軸撚糸文が縱走するもの。
- ☆ (13~15) → 口頭部がやや内傾し、單軸撚糸文が施文されるもの。
- ☆ (11) は片口付土器

(H1 IV出土)

(H2 IV出土)

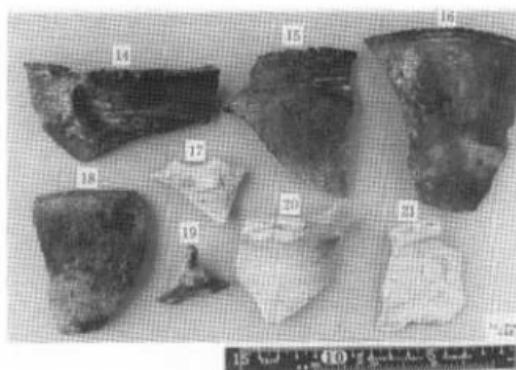


☆ (1~10) → 第3群土器
十種内 I式



☆ (11~13) → 第7群土器
大洞C1式

* (11) は、大洞C2式の疑いもある。



☆ (16・18) → 第7群土器
大洞C1式

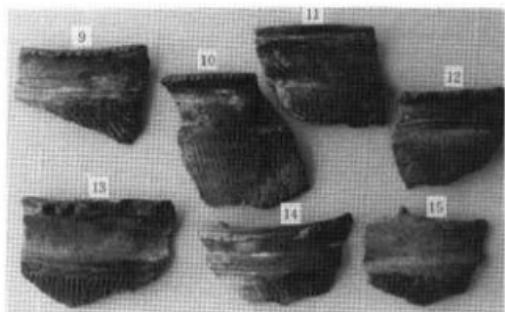
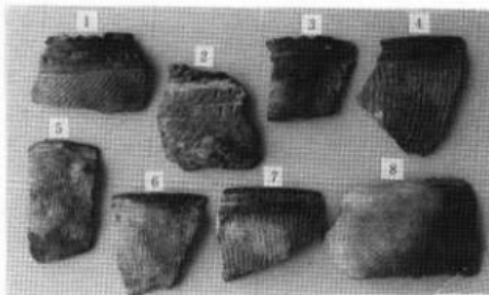
☆ (14・15) → 第8群土器
大洞C2式

☆ (17・19~21) → 第10群土器
大洞A式

* (19) は突起。

(H1 IV出土)

☆ (1~8) → { 第7群土器
大洞C₁式 }



☆ (9~15) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

いずれも頭部の無文帯が広いもので、
大洞C₁ ~ 大洞C₂式の間のものであ
ろうか？

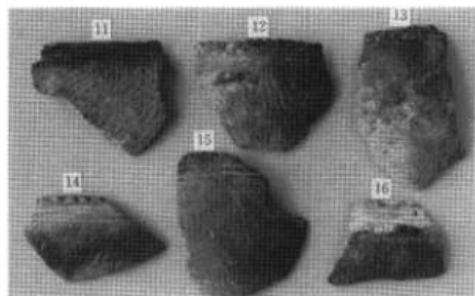
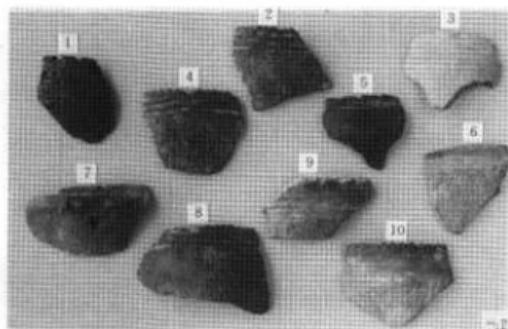
☆ (16~20) → { 第8群土器
大洞C₂式 }

※ (9~15) と同様、肩部の張るタイプ
であるが一応第8群土器とした。



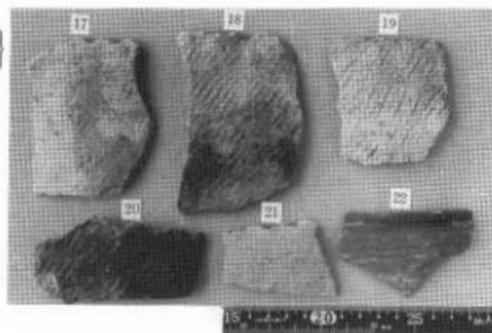
(H1 IV出土)

☆ (1~10) → { 第7群土器
大洞C₁式 }



☆ (11~16) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

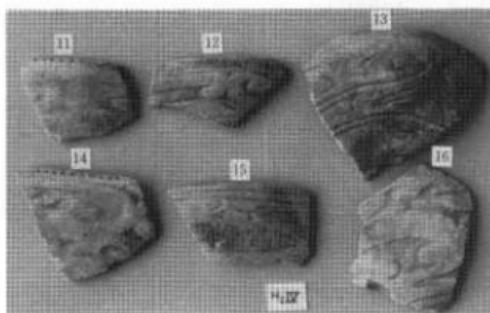
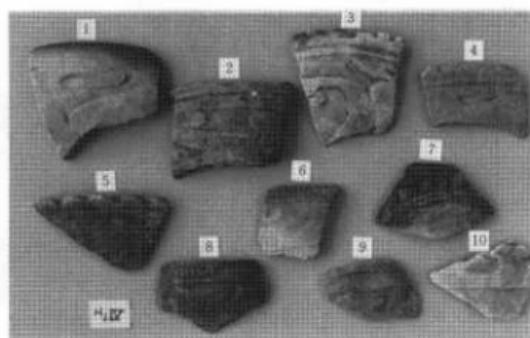
☆ (17~22) → { 第7群土器
大洞C₁式 }



※ (22) は、精製土器

(H1 IV出土)

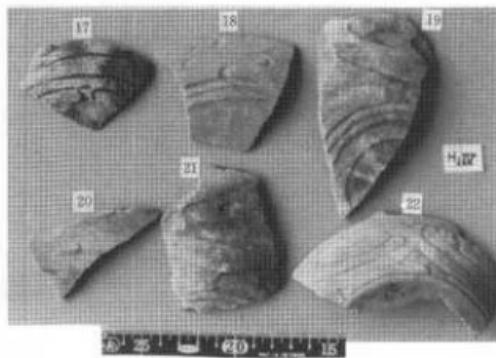
☆ (1~10) → { 第7群土器
大洞C₁式 }



☆ (11~16) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

☆ (17~22) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

※ (1~22) → 精製土器

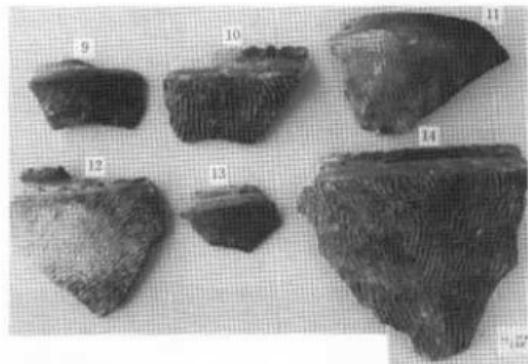
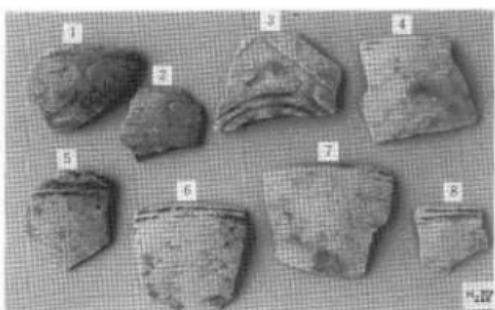


(H1 IV出土)

☆ (1~3) → 第7群土器
大洞C₁式

☆ (4~8) → 第8群土器
大洞C₂式

※ (1~8) → 精製土器



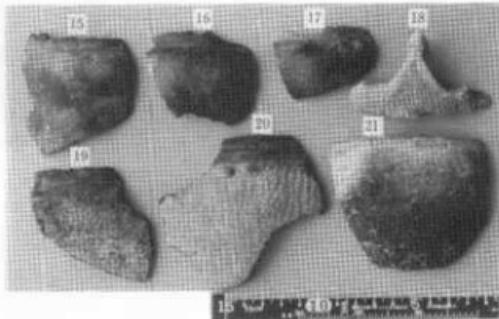
☆ (9~14) → 第7群土器
大洞C₁式

※粗製土器 (9~14)

☆ (15~16~21) → 第7群土器
大洞C₁式

☆ (17~20) → 第8群土器
大洞C₂式

※ (15~21) → 粗製土器

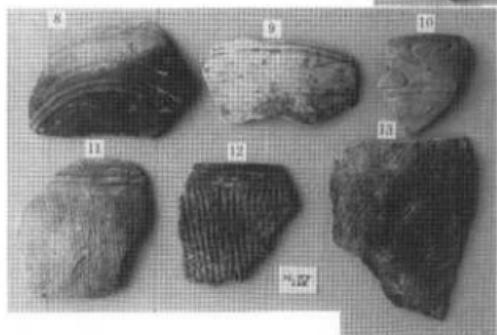
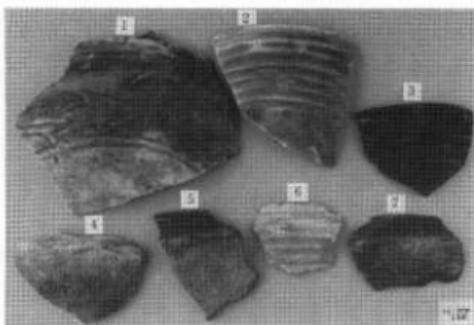


(H1 IV出土)

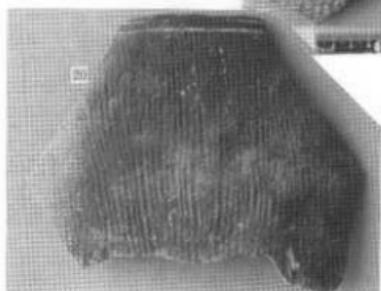
☆ (1~3, 6~7) → 第10群土器
大洞A式

※ (1, 7) → 精製土器

☆ (4~5) → 第7群土器
大洞C₁式



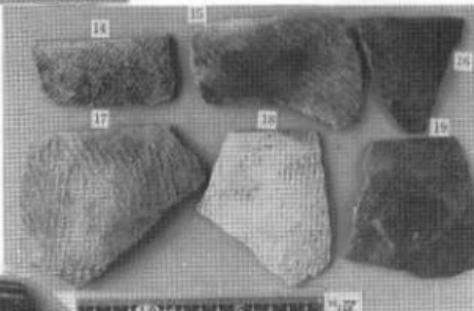
☆ (14~20) → 第8群土器
大洞C₂式



☆ (10) → 第7群土器
大洞C₁式

☆ (8~9, 11~13) → 第8群土器
大洞C₂式

※ (8, 9) → 精製土器



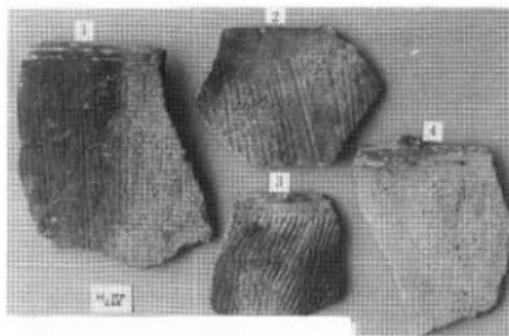
※ (14~19) → 口縁直下より斜行繩文、

単軸撚糸文のあるもの。

※ (20) → 平行沈線文と、単軸撚糸文のあるもの。

(H1IV出土)

☆ (1~9) → { 第8群土器
大洞C₂式 }



5

☆ (1~4) → 口頭部に平行沈線文と、肩部に条痕文のあるもの。

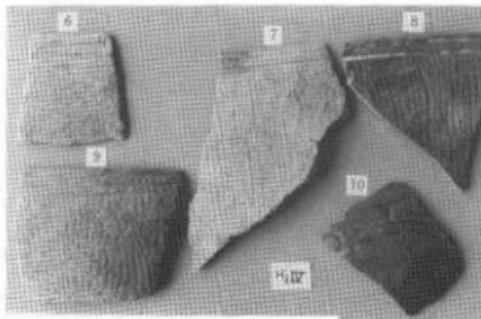
☆ (2) → 口頭部が無文帯をなし、肩部下に条痕文のあるもの。

☆ (3・6・9) → 口頭部に平行沈線文が施文され、肩部下に縦文
のあるもの。

☆ (5) → 口縁直下より、条痕文が施文されるもの。

☆ (7・8) → 口頭部に平行沈線文があり、肩部下に單軸撚糸文の
施文されるもの。

☆ (10) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

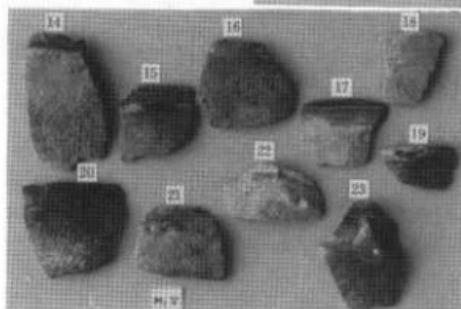
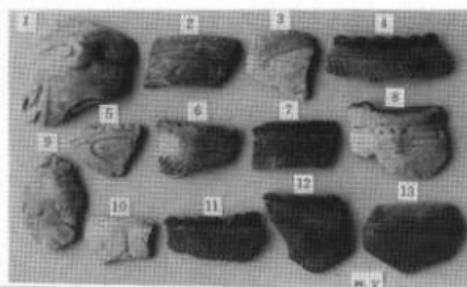


(H1 V出土)

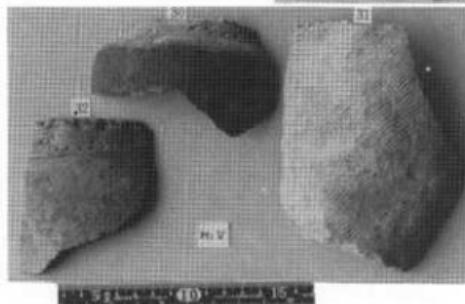
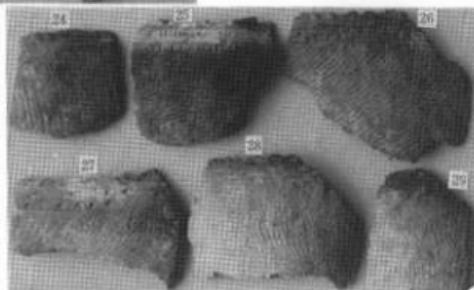
※ (H1 = グリット名、V = 5層の意)

☆ (1~13) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

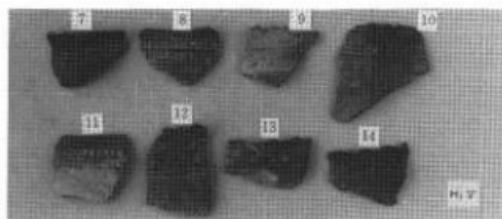
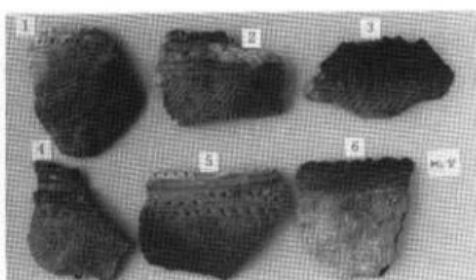
※ (1~3・5・9・10) → 精製土器

☆ (14~23) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

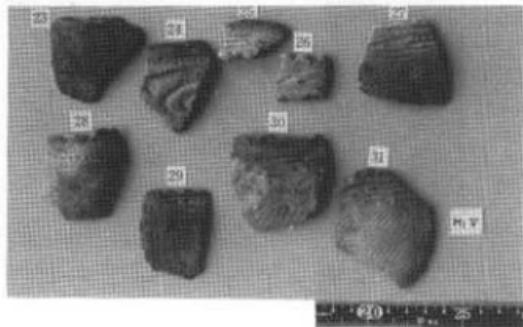
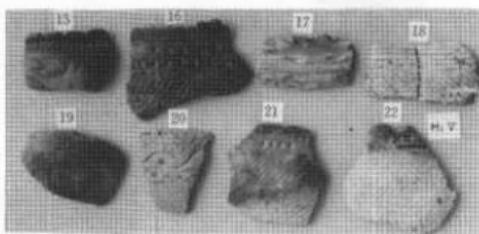
☆ (19) → 片口付鉢形土器

☆ (24~29) → { 第7群土器
大洞C₁式 }※ (24) → 刺突文と条痕文のあるもの
は稀少である。☆ (30~32) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

(H1 V出土)

☆ (1~31) → { 第7群土器
大洞C₁式 }

※ (15) → 精製土器

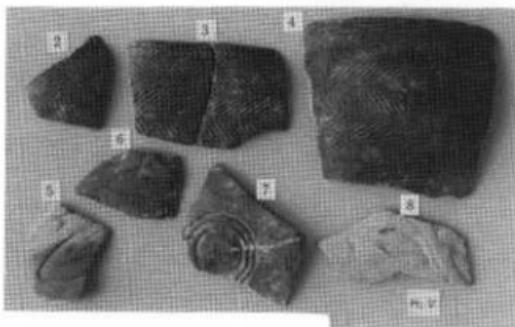
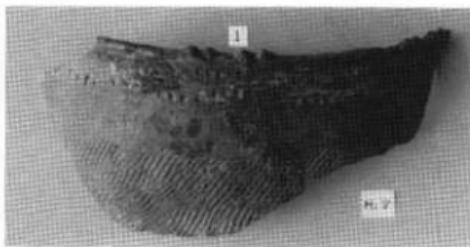
※ (20) → 大洞C₁式と同B・C式の施文
要素をもつもの。

☆ (24) → 精製土器の疑いもある。

(H1 V出土)

☆ (1~5・8) → 第7群土器
大洞C₁式

※ (5・8) → 精製土器



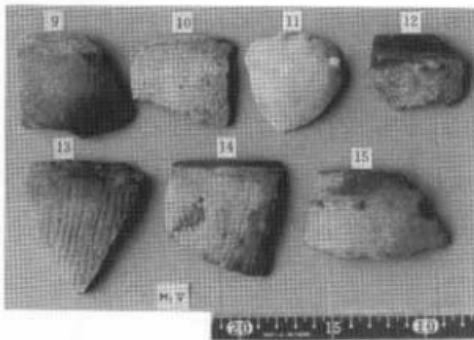
☆ (6) → 第9群土器？(聖山式)
大洞C₂~A式(仮称)

☆ (7) → 第8群土器
大洞C₂式

※ (2~4) の羽状縦文はめずらしい。

☆ (9・13・14) → 第7群土器
大洞C₁式

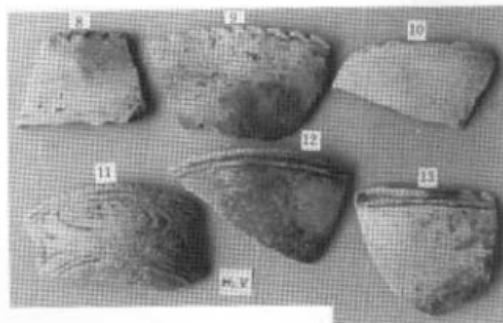
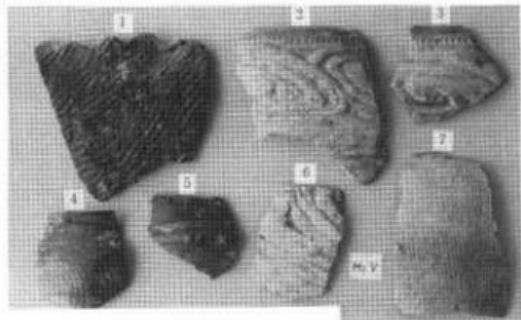
☆ (10~12・15) → 第8群土器
大洞C₂式



(H1 V出土)

☆ (1~3・7) → 第7群土器
大洞C₁式

☆ (4~6) → 第8群土器
大洞C₂式



☆ (8・9) → 第7群土器
大洞C₁式

☆ (10~13) → 第8群土器
大洞C₂式

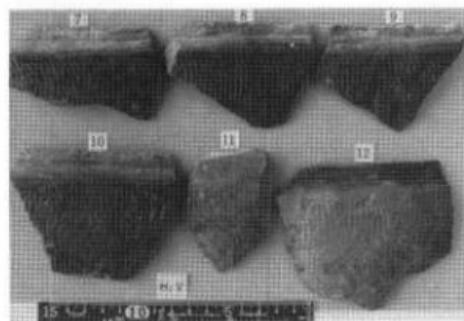
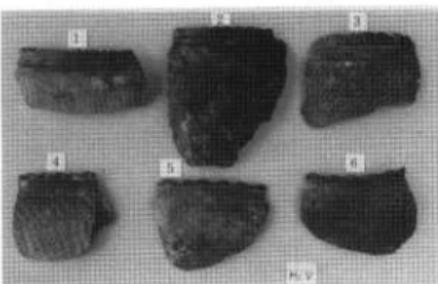
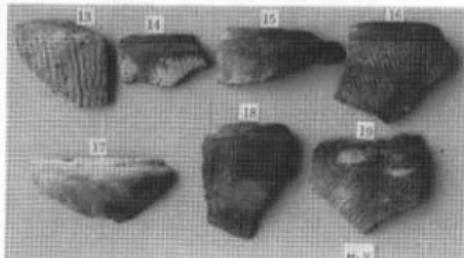
※ (11~13) → 精製土器

☆ (14~16・19・20) → 第8群土器
大洞C₂式

☆ (17・18) → 第10群土器
大洞A式



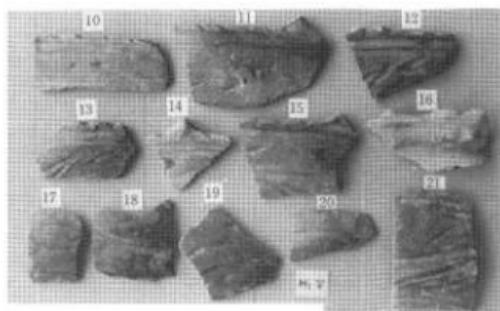
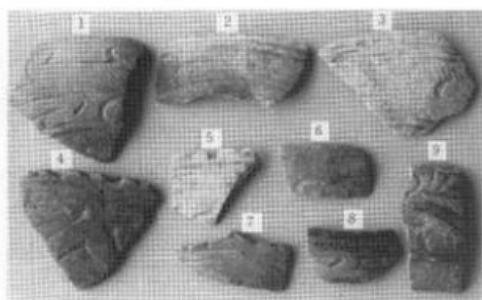
(H1V出土)

☆ (1~6) → { 第7群土器
大洞C₁式 }☆ (7~12) → { 第7群土器
大洞C₁式 }☆ (13~19) → { 第7群土器
大洞C₁式 }☆ (20~25) → { 第8群土器
大洞C₂式 }☆ (26·27) → { 第10群土器
大洞A式 }

(H1 V出土)

☆ (1~9) → { 第7群土器
大洞C1式 }

☆ (1~9) は精製土器

☆ (10~15) → { 第7群土器
大洞C1式 }☆ (17~21) → { 第7群土器
大洞C1式? }☆ (16) → { 第10群土器
大洞A式? }

※ (10~21) は精製土器

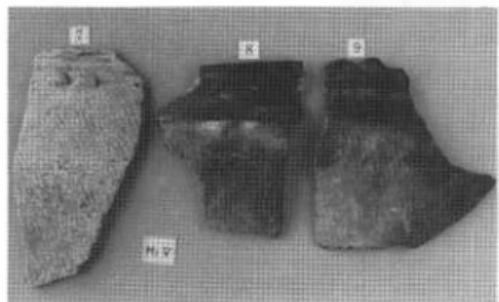
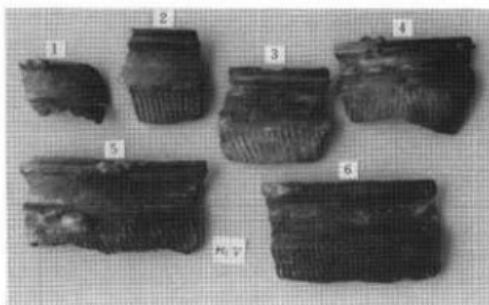
☆ (22~24~27~29~31) → { 第8群土器
大洞C2式 }☆ (23~28) → { 第7群土器
大洞C1式 }

※ (22~31) は精製土器



(H1 V出土)

☆ (1~6) → { 第8群土器
大洞C₂式 }



☆ (7~9) → { 第8群土器
大洞C₂式 }

☆ (10~15) → { 第8群土器
大洞C₂式 }

